

## インド

健康な森、健康な人々、気候変動プロジェクト  
西ガーツ北部の生物多様性保全と持続可能な生計支援  
現地からのお便り

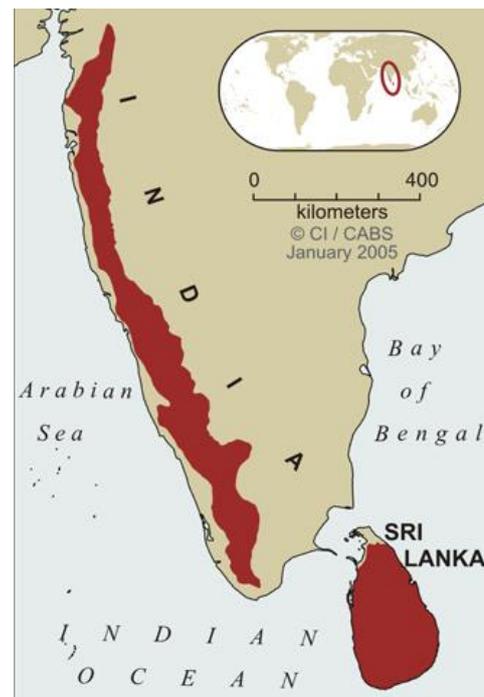
2016年10月  
Applied Environmental Research Foundation (AERF)  
コンサベーション・インターナショナル

## 背景

西ガーツ山脈は、アラビア海に面したインド西海岸と平行して、約 1600 キロメートルにもわたって伸びている山脈です。海からのモンスーンが山脈にぶつかることで、夏には沢山の雨が降り、インドの主要な河川の水源になっています。そして、この高温多湿の気候は、西ガーツ山脈に豊かな森をつくりだし、多くの生物種に棲みかを提供してきました。また、古くからこの地に暮らす人々は、森と結びついた豊かな文化的な多様性を有し、人々の手によって伝統的に守られてきた、文化的・宗教的に重要な古来からの森が点在しています。

一方で、インドの農村部では、薪炭が未だ主要なエネルギー源で、それはこの地域でも同様です。地元での生計手段が限られ、また、コミュニティに森林生態系がもたらす様々な恵みである生態系サービスに対する知識がないため、森林の破壊が続いています。傾斜があり、また強い雨風にさらされる西ガーツ山脈は、一旦植生が失われると、土壌の流出などにより、生態系のバランスを回復することが非常に困難です。そのため、インド政府により「生態系が影響を受けやすい地域 (Ecologically Sensitive Areas: ESA)」という指定を受けています。ESA は、保護区などとは異なり、人が暮らし、活動する地域を対象とした制度で、経済活動を禁止するのではなく、環境に優しい経済活動が推進される場所です。

この地域のもう一つの特徴は、森林の所有形態です。多くの国では、森林は、国や自治体が所有する公有地ですが、この地域では、森林の実に 9 割がコミュニティが所有し管理する私有地なのです。この所有形態は、コミュニティの人々が保全の重要性を理解していない現状では、残念ながら、森林が失われている原因の一つとなっています。しかし、コミュニティと共に森林保全を実施する場合には、大きなチャンスでもあります。





村の農業の様子



対象地域の様子

2016年7月に開始したこのプロジェクトでは、北西ガーツ地方のラタナギリ県とシンドゥドゥルグ県で、地元コミュニティが抱える課題への取組みを通じて、森林保全を目指します。そのため、以下の活動を実施します。

- ESAに指定された村々を対象に、インセンティブを活用した保全契約を通じた森林保全
- 生態系サービスを持続的に活用できる生計手段の導入のための普及啓発と能力トレーニング
- バイオガス又はバイオマス燃料を利用した料理用カマドをインセンティブの一部として導入し、薪炭利用量を低減
- 生態系サービスのマッピングと価値化

\* 本プロジェクトは、インドの地元 NGO である Applied Environmental Research Foundation (AERF)が実施します。

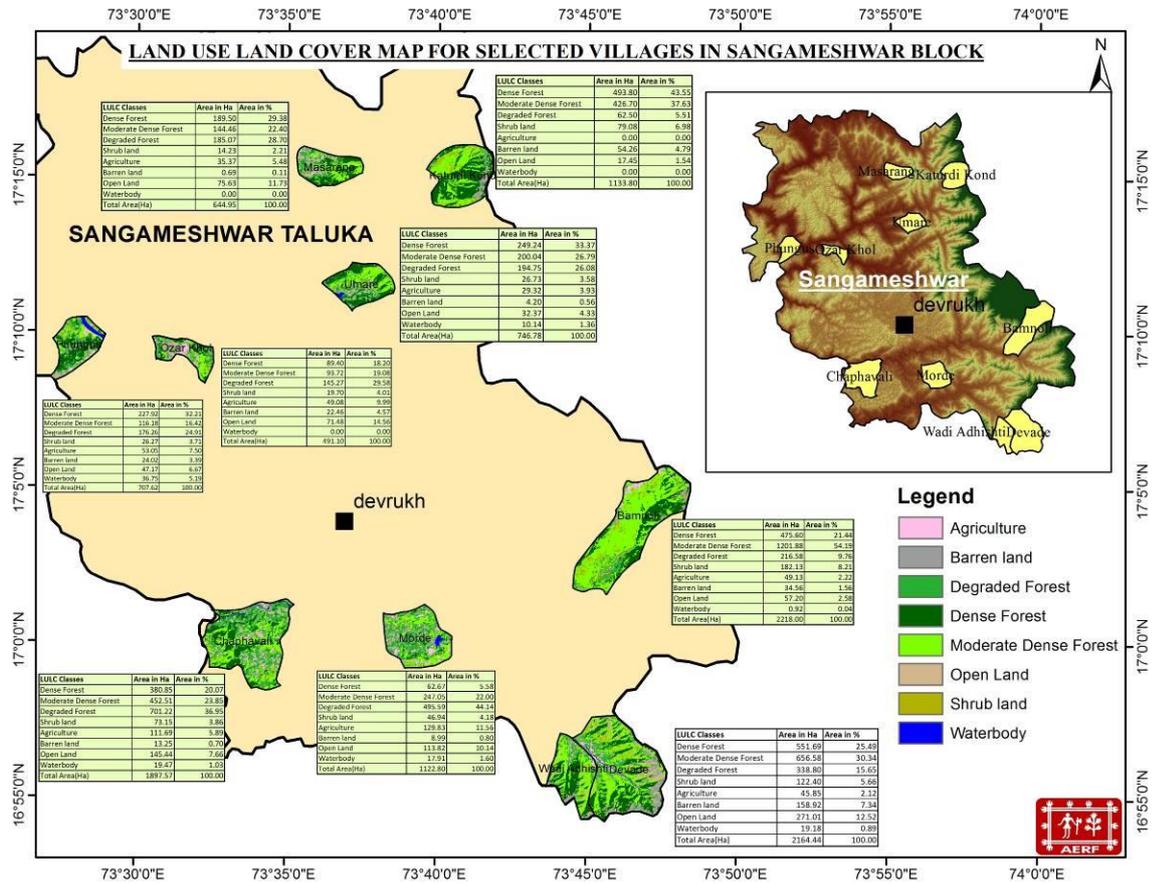
それでは、今期の活動をご紹介します。

## 森林保全

共に森林保全を行なうコミュニティを選ぶための調査を開始しました。その第一歩として、まず、サヒヤディ・トラ保護区 (Sahyadri Tiger Reserve) の緩衝地帯にある「生態系が影響を受けやすい地域 (ESA)」と定められた村のリストを作成しました。合計で、179村ありました。緩衝地帯は、保護区の間を移動するコリドーとして、野生生物にとって重要な場所です。

村の人々が生物多様性の損失や森林減少についてどのような意識をもっているのかを理解するため、調査のための質問票を作成しました。そして、179の村から、標高やアクセスを考慮し、9つの村を第一段階の調査対象に選びました。また、森林劣化の度合いと保全の可能性を理解するため、これらの村の土地利用土地被覆図を準備しました。

今期は、農業の繁忙期であり、またモンスーンの季節で強い雨が降り続いたため、質問票を使った調査は完了しませんでした。次期にも継続します。



9つの村の土地利用土地被覆図

モンスーンの雨が一段落しはじめたころ、森林保全に向けた話し合いを始めるため、バンノリ村、カーディ・コルワン村、パル村、アナデリ村に行きました。コミュニティは、森林保全に前向きです。



アナデリ村の代表との会合



アナデリ村の私有林の様子